

## 英語教育推進に係る状況及び今後の取組について

令和5年7月19日 小中学校課、高等学校課

## 【生徒の英語力及び授業改善等についての状況】※令和4年度英語教育実施状況調査結果より

- 生徒の英語力は、高等学校では昨年度から5%上昇し、国の目指す目標値〔CEFR A2以上（英検準2級など）5割〕を達成する生徒の割合が5割を超えた。中学校においては、国の目指す目標値〔CEFR A1以上（英検3級など）5割〕を達成する生徒の割合が4割に満たなかった。
- 授業における児童生徒の英語による「言語活動」(※1)の実施状況について、前年度課題があった小学校での状況が大幅に改善された。中学校及び高等学校においては、全国と比べて低い状況にあるが、いずれも着実に上昇している。
- 県独自調査による「英語の学習が好きか」という問いに対して、令和4年度の中学1年生の値が過去4年間で最も低かった。

## 【今後の取組】

- 中学校の生徒の英語力に課題が見られたことから、外部試験（英検I B A）を活用して、客観的指標を基に、データを活用した授業改善ができるようにする。  
(※2：小・中学生のための英語教育推進事業)
- 児童生徒の英語によるコミュニケーション能力及び英語学習への意欲の向上のため、学校内外におけるALT等ネイティブスピーカーと英語によるコミュニケーションをとる場を充実させる。  
(※3：ALT等を活用した英語によるコミュニケーション能力向上事業)
- 4技能をバランスよく育成する授業づくりをより一層推進するため、言語活動の質の向上について各種研修会や学校訪問等で周知を図る。
- 小中連携の確実な実施に係り、小学校の外国語・外国語活動の目標や内容について中学校教員に周知を図るとともに、市町村教育委員会と連携して、中学校区内での連携を推進する。  
(※1) 英語による「言語活動」：学習指導要領に示されている、英語によるコミュニケーションをする資質・能力を育成する活動  
(※2) (※3) の具体については、<令和5年度英語教育推進関連事業>に記載

## 【英語教育実施状況調査】

文部科学省が、平成25年度より毎年実施している、全国公立小・中・高等学校等における英語教育の状況を把握する調査（R2未実施）

## 1 生徒の英語力令和4年度英語教育実施状況調査結果概要

## (1) 英語担当教師並びに生徒の英語力の状況

調査項目	R4達成度	全国順位	国の目標値	R3達成度	全国順位
R4英語担当教師の英語力の状況(※4) (高等学校)	90.9%	4位	75%	96.0%	2位
R4英語担当教師の英語力の状況(中学校)	33.5%	38位	50%	33.5%	37位
R4生徒の英語力の状況(※5) (高等学校)	50.8%	11位	50%	45.8%	27位
R4生徒の英語力の状況(中学校)	34.6%	46位	50%	40.0%	36位

(※4) 教師の英語力の状況：「英語能力に関する外部試験」の結果で、「CEFR B2レベル以上（英検準1級など）」を取得している英語担当教師数の割合

(※5) 生徒の英語力の状況：「英語能力に関する外部試験」の結果で、中学校では「CEFR A1レベル以上（英検3級など）」高等学校では「CEFR A2以上（英検準2級など）」を取得している又は相当の英語力を有すると思われる生徒数の割合

## (2) 英語教育推進の状況

調査項目	R4達成度(順位)	全国平均	R3達成度	全国平均
授業における言語活動時間(※6)の状況(高等学校)	48.2%(25位)	52.9%	31.6%(45位)	50.3%
授業における言語活動時間の状況(中学校)	67.9%(35位)	74.5%	65.3%(34位)	71.3%
授業における言語活動時間の状況(小学校)	94.2%(12位)	91.9%	75.4%(47位)	92.0%
小中連携の状況	67.9%(28位)	75.5%	58.9%(37位)	72.5%

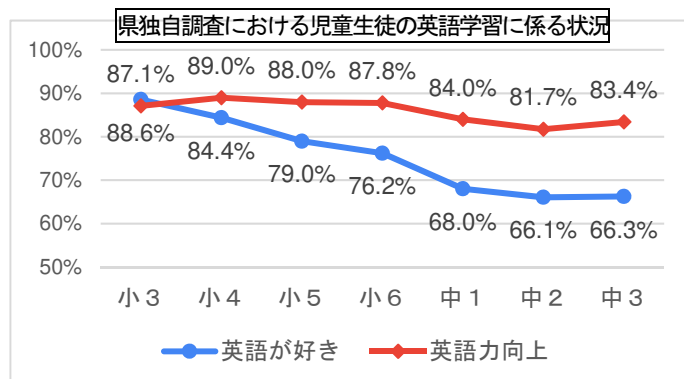
(※6) 授業における言語活動時間の状況：(小) 授業において児童が英語で言語活動をしている時間が半分以上と回答した学級の割合  
(中・高) 授業において生徒が英語による言語活動をしている時間が、授業の半分以上と回答した教師数の割合

## (3) 児童生徒の英語学習に係る状況

県独自調査における「英語の学習が好きか」「英語を使ってできることが増えたと思うか」という問いについての、各学年での肯定的回答は右のとおり。

中学1年生で「英語の学習が好き」と回答した生徒の割合

令和2年度	70.9%
令和3年度	68.9%
令和4年度	68.0%



## 2 成果と課題

### 〈小学校〉

○言語活動の実施状況が大幅に改善された。言語活動の正確な理解や授業改善について、動画資料を作成したり各種研修や学校訪問等で周知したりしたことが奏功したと考えられる。

### 〈中学校〉

○生徒の英語力は近年着実に向上していたが、令和4年度調査においては大幅に下降し4割に満たなかった。

○実際に外部試験による資格を取得していなくても教師が同等の力を有すると判断した生徒の割合に、年度や学校ごとの差がみられることから、生徒の英語力の見取り方が教師によって異なることが考えられる。

○教師の英語力が全国平均に比べて低く、授業における教師の英語使用状況も低い。（鳥取県 69.6%、全国平均 74.4%）

○言語活動を中心とした授業改善が進みつつある一方、活動は行いが英語の正確性や場面に応じた適切さ等について指導が十分ではない実践も散見される。

○県独自調査における、「英語の学習が好きか」という問いに対して、中学1年生の数値が過去4年間で最も低かった。中学校で小学校外国語活動・外国語の目標、内容や授業の様子等が十分に理解されておらず、特に中学校入学時点での「読むこと」や「書くこと」の丁寧な指導が不十分であることが考えられる。

### 〈高等学校〉

○生徒の英語力は年々向上し、国の定める目標である5割を超えた。

○教師の英語力は全国的に見ても高いが、教師の英語使用状況（鳥取県 32.5%、全国平均 46.1%）及びCan-Do リスト（※7）の検証（鳥取県 34.8%、全国平均 64.1%）に課題があり、英語によるコミュニケーションに必要な資質・能力の育成を意識した指導が十分ではないことが推察される。

（※7）Can-Do リスト：英語を使って何をすることができるようになるのか領域別（聞く、話す、読む、書く）に示した目標

## 3 今後の取組

### ○授業改善の推進

・各種研修会等の実施及び各市町村教育委員会や教育研究団体等との連携により、言語活動の充実と指導と評価の一体化を推進する。

・中学校及び高等学校においては、教育課程研究集会や各種研修会をとおして、教師が英語で授業を行うことの有用性について理解を図る。

### ○ALT 等の授業参画の促進

・ALT 等を効果的に活用し、授業内外で日常的に英語に触れる機会を創出している事例を周知する。

### ○小中連携の確実な実施

・小学校の外国語・外国語活動の目標や内容について、中学校教員に周知を図る。

・教育課程研究集会等での周知や、各市町村教育委員会との連携により、中学校区内での小中連携の推進を図る。

### ○外部試験（英検 IBA）の活用（中学校）

・客観的指標（英検 IBA 等）を活用し、各学校で教師が生徒の英語力を適切に見取り、指導に生かす。

## 〈令和5年度英語教育推進関連事業〉

### （1）小・中学生のための英語教育推進事業（※2）

#### ①外部試験を活用した児童生徒の英語力向上事業

県内全公立中学生と小学6年生（希望者）に外部試験（中：英検 IBA 小：英検 ESG）を実施

#### ②各種研修会

各学校段階で、授業づくりや指導と評価の一体化の充実に係る研修を実施

#### ③英語教育推進フォーラム（11月）

小・中・高等学校のつながりを見通した英語教育推進のため、全校種の英語担当教員等が一同に会し、実践発表や外部講師による講演を実施

#### ④英語教育推進プロジェクトチーム会議

外部有識者及び市町教育委員会、教員等による委員会を設置し、英語教育推進のための施策等について検討（9月）

### （2）ALT 等を活用した英語によるコミュニケーション能力向上事業（※3）〔令和5年度6月補正予算で要求〕

#### ①ALT と学ぼうコミュニケーション事業【小中学生】

ALT を活用し、日常から英語に触れる機会を創出している事例（パフォーマンステストや異文化理解等）の教材を作成し周知・展開

#### ②小学生のための1DAY イングリッシュ【小学生】

小学生が、ALT 等ネイティブスピーカーと様々な活動を通して英語に親しむイベントを開催（7・8月）

〔3、4年生対象：親子でイングリッシュDAY 5、6年生対象：新しい友達とイングリッシュDAY〕

#### ③Tottori English Challenge Program 2023【中高校生】

中学生及び高校生のための、ALT 等ネイティブスピーカーによる3日間にわたる目的別のスピーキング講座を開催（8月）

#### ④ネイティブスピーカーとのオンラインスピーキング【中学生】

中学生の英語を話す力を伸ばすために外国人講師とのオンライン英会話レッスンを導入する市町に受講料を支援

#### ⑤高校生海外交流促進事業【高校生】

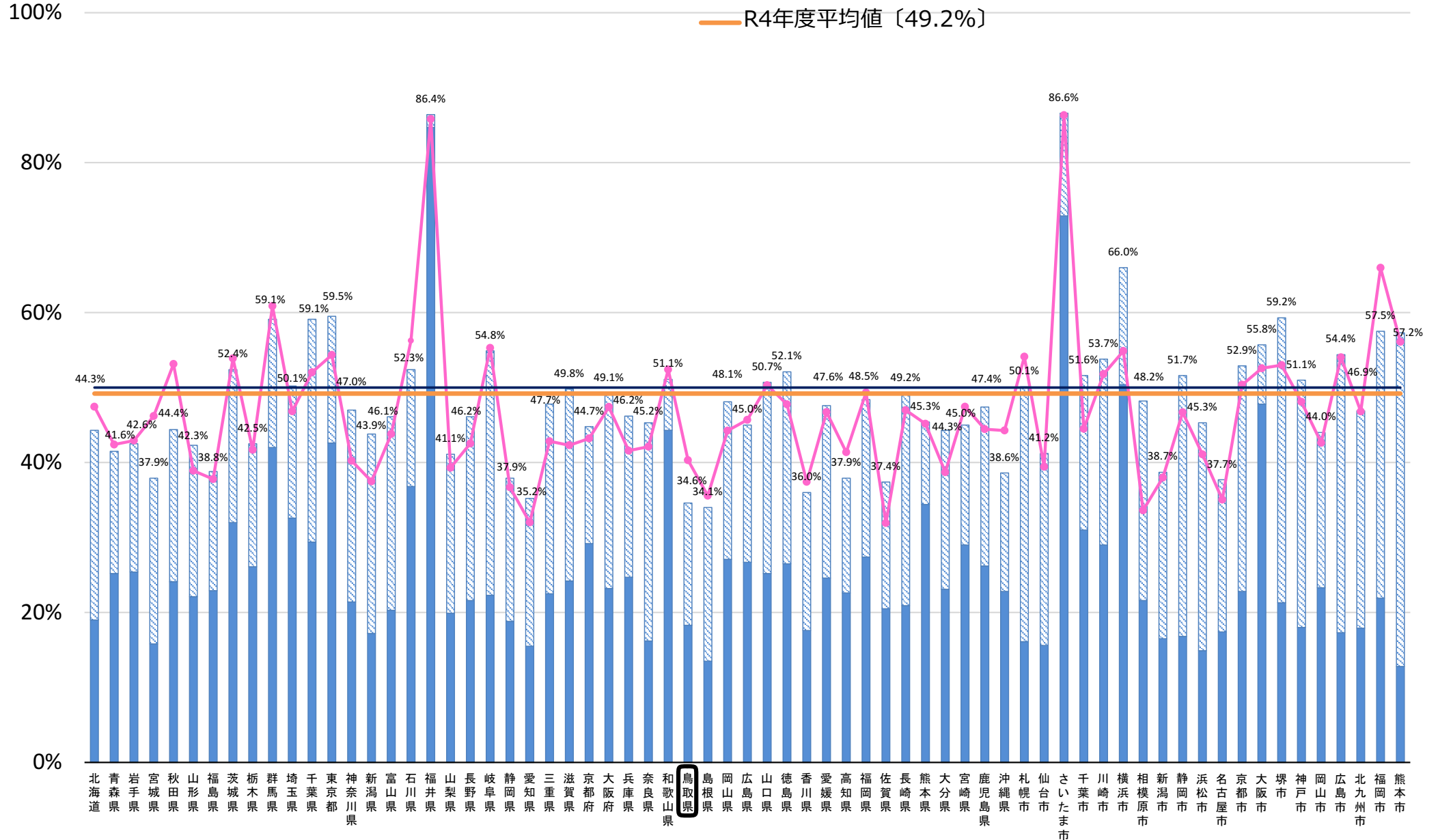
高校生の海外派遣等を支援

〔広島道青少年国際フォーラム・鳥取県英語弁論大会（優秀者をニュージーランド派遣）・クライストチャーチ架け橋プロジェクト〕

# 中学生の英語力 (都道府県・指定都市別)

A1レベル相当以上

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合
- CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒の割合
- R3年度
- 目標値：50% 【第3期教育振興基本計画】
- R4年度平均値〔49.2%〕

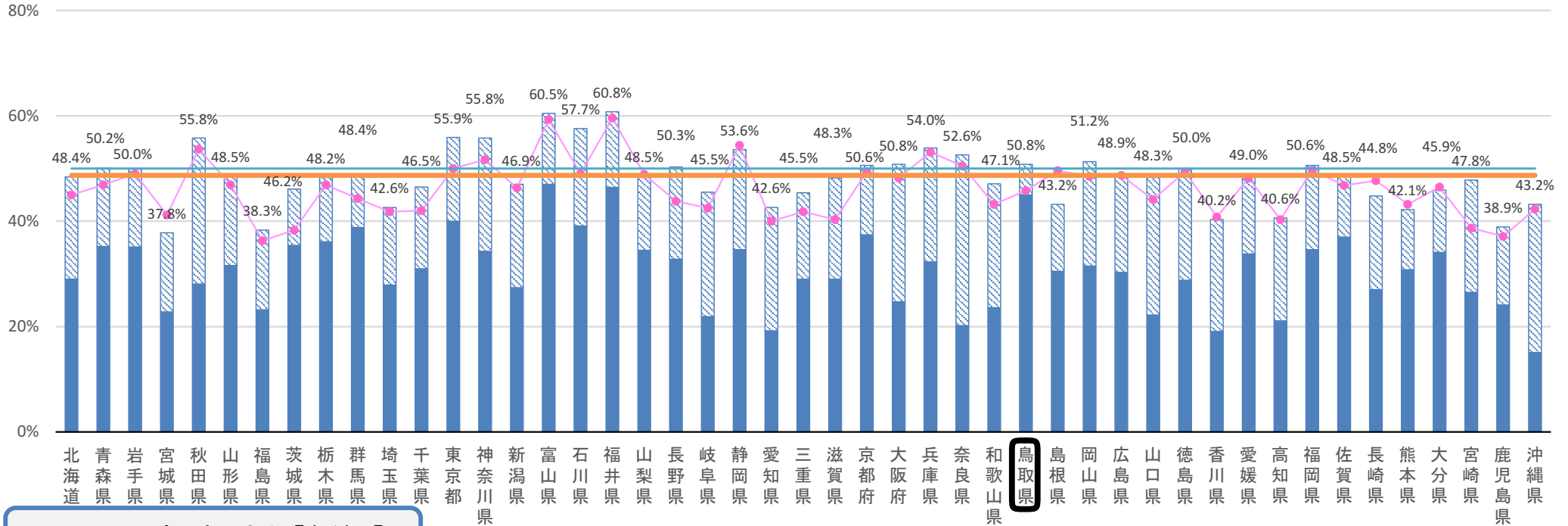


# 高校生の英語力(都道府県別)

## A2レベル相当以上

■ CEFR A2レベル相当以上を取得している生徒の割合  
 ● R3年度  
 — R4年度平均値〔48.7%〕

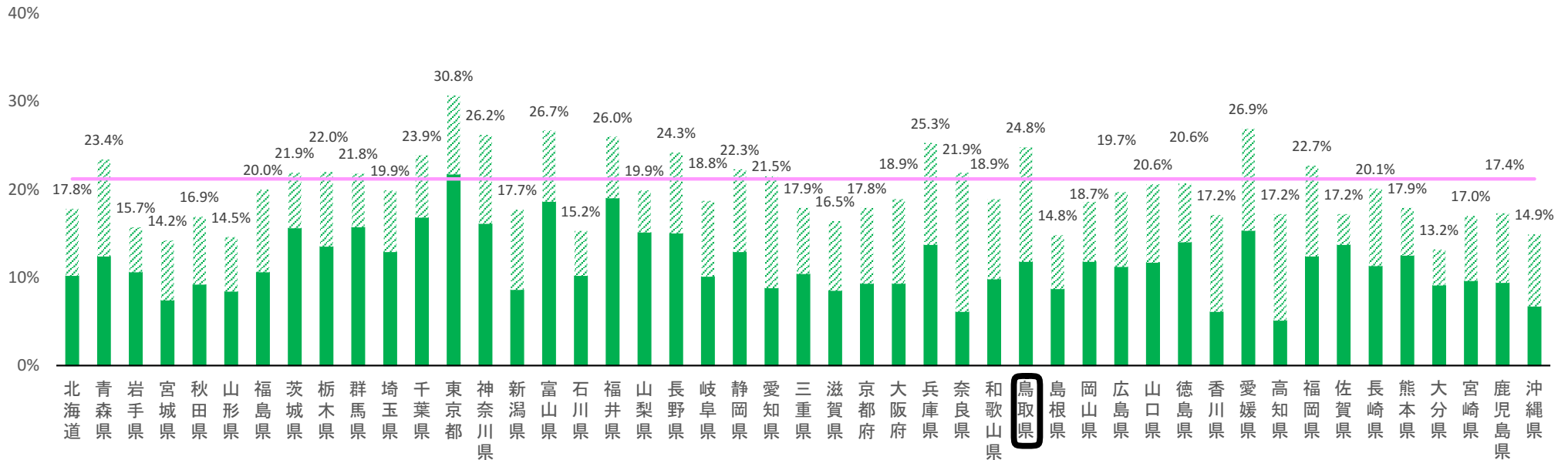
▨ CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合  
 — 目標値：50%【第3期教育振興基本計画】



## B1レベル相当以上【新規】

■ CEFR B1レベル相当以上を取得している生徒の割合  
 ● R4年度平均値〔21.2%〕

▨ CEFR B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合

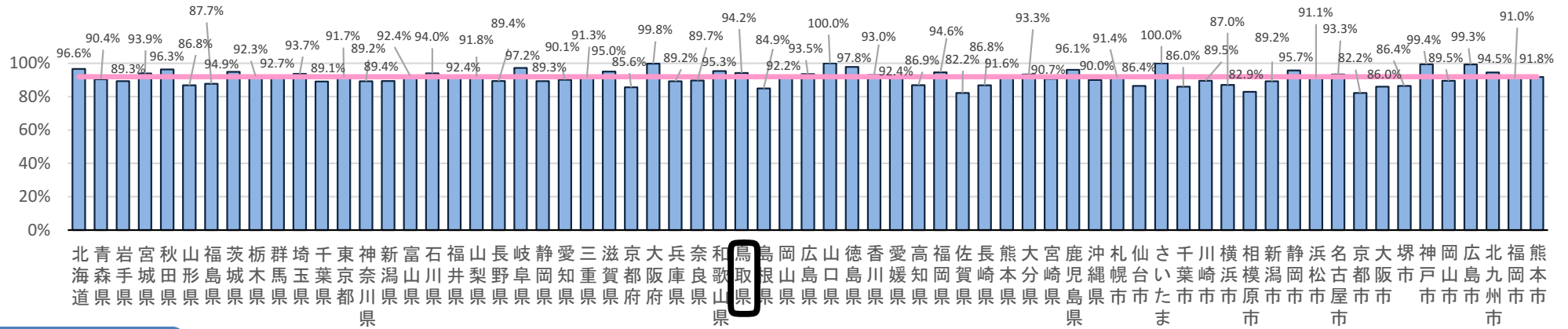


# 児童生徒の英語による言語活動の状況(都道府県・指定都市別)

## 小学校

授業における児童の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合〔第5,6学年〕〔欠学年のある学校を除く〕

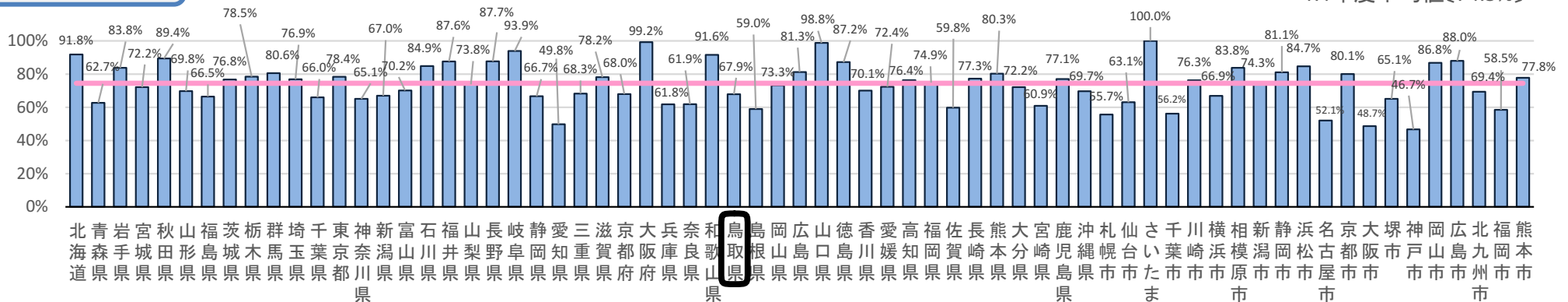
— R4年度平均値〔91.9%〕



## 中学校

授業における生徒の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合〔全学年〕

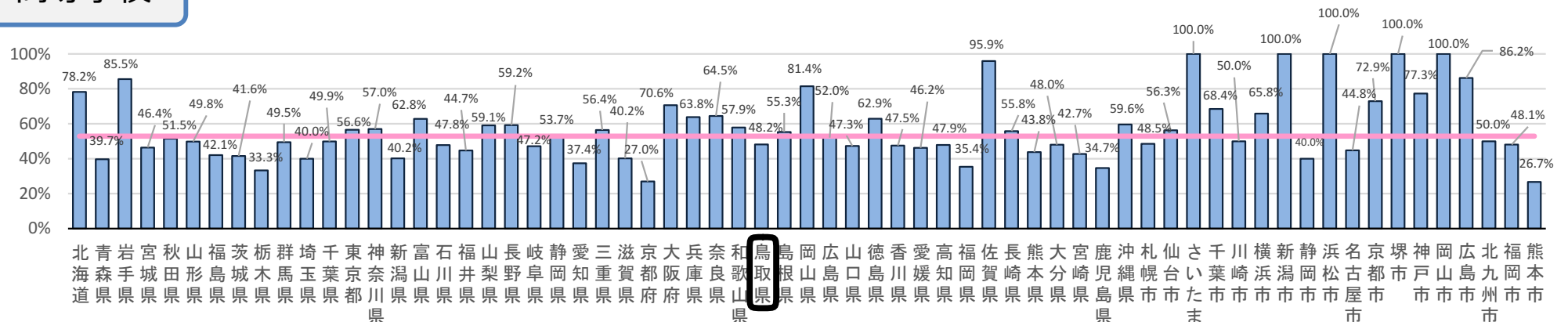
— R4年度平均値〔74.5%〕



## 高等学校

授業における生徒の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合〔全学科〕

— R4年度平均値〔52.9%〕

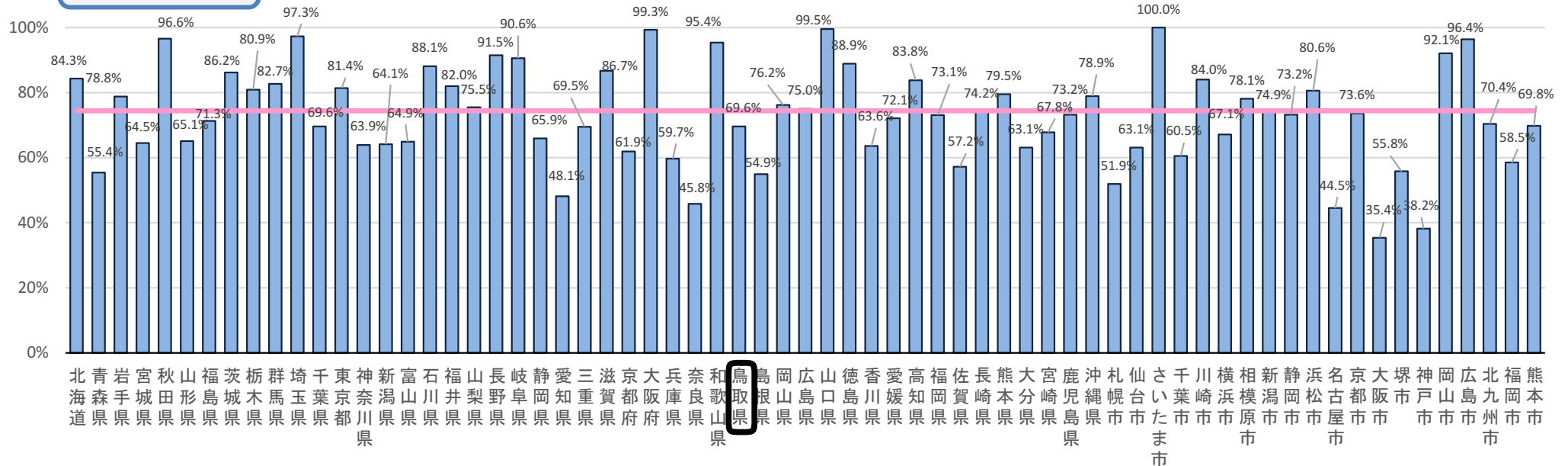


※半分以上とは、「75%以上」又は「50%以上75%未満」と回答した学校(又は学科)の割合の合計。

# 英語担当教師の英語使用状況(都道府県・指定都市別)

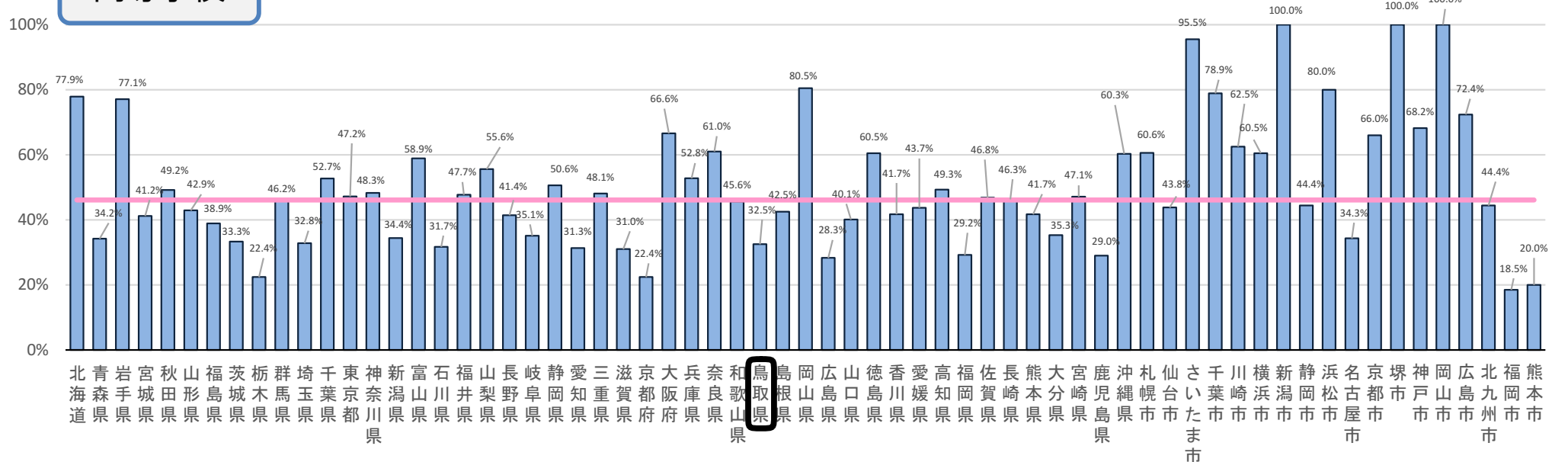
## 中学校

■ 教師が発話の半分以上を英語で行っている学校の割合〔全学年〕    — R4年度平均値〔74.4%〕



## 高等学校

■ 教師が発話の半分以上を英語で行っている学校の割合〔全学科〕    — R4年度平均値〔46.1%〕



※半分以上とは、「75%以上」または「50%以上75%未満」と回答した学校（または学科）の割合の合計。

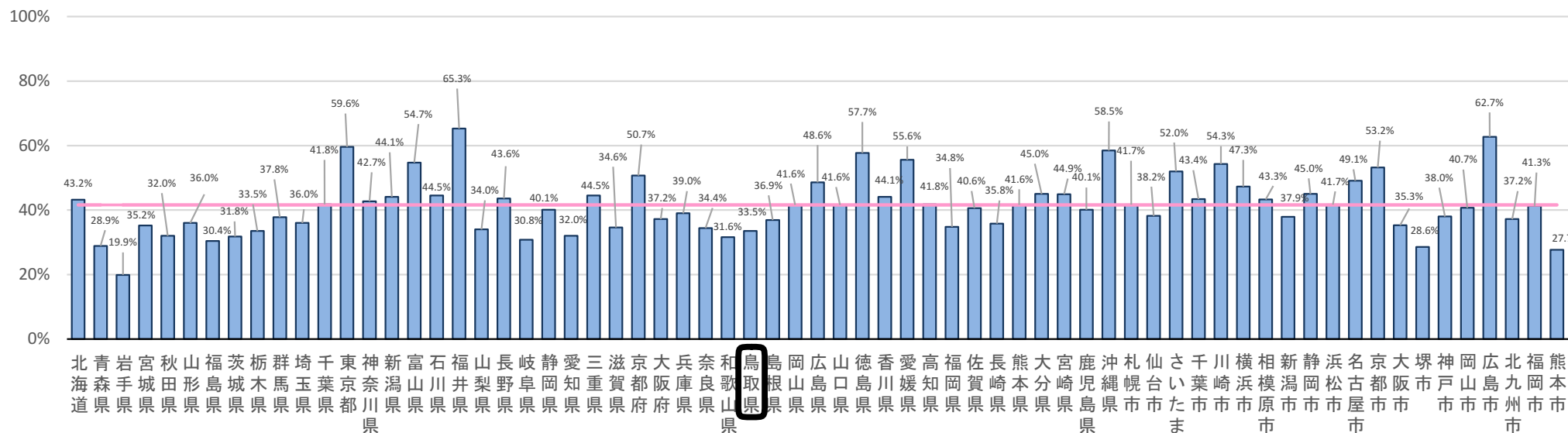


# 英語担当教師の英語力(都道府県・指定都市別)

## 中学校

CEFR B2レベル（英検準1級）相当以上を取得している教師の割合

R4年度平均値〔41.6%〕



## 高等学校

CEFR B2レベル（英検準1級）相当以上を取得している教師の割合

R4年度平均値〔72.3%〕

